

# わざを 受け継ぐ

不可能を可能に  
無理難題に  
果敢に挑む

丸勝モルダ―特殊加工(石巻市)

代表 首藤 勝秋さん  
Katsuki Suito

社寺建築の  
修行で思い知った  
父の技術の高さと  
プロとしての自負

自動加工と聞くと、誰もが同様の物  
を作れそうに思っかもしれないが、そ  
うではない。「NCマシンでやれるこ  
とをどう組み合わせると、こういうこ  
とができる」というのは使う側次第  
と話す首藤代表。また、丸勝モルダ―  
特殊加工のNCマシンは「フルオー  
ダー」で、つまり、世界唯一なのだ。  
マシンを駆使し、なかなか他では真似  
のできない、半球状に組み上げる木材  
の加工を、首藤代表は苦もなくやり上  
げる。また、過去には、東京国際フォー  
ラムの手すりなど、国内の有名な建造  
物の一部も手掛けてきた。



首藤 雅史さん  
Masafumi Suito

首藤代表の長男である雅史さんが入  
職したのは今年1月のこと。高校卒業  
後、福井県の社寺建築を手掛ける企業  
に就職し、8年を過ごした。その間、  
平城宮跡の南門復原工事などに携わっ  
ている。「父の仕事ぶりを小さい頃か  
ら見てきましたが、ものすごいことを  
やっているというのが、木材を扱う仕  
事に就いて初めて分かりました」

NCマシンを  
フルに活用  
お客様からの信頼に  
実現化で応える

木材の特殊加工を事業の柱とする丸勝  
モルダ―特殊加工。1927年に現代表  
の首藤勝秋代表の祖父が起こしている。  
大工を生業とし、事業所ホームページに  
も写真を掲載しているとおり、寺の山門  
など社寺建築にも当初から関わってい  
た。その後、建築業として規模は順調に  
大きくなっていったが、「父の代に入っ  
て、オイルショックの頃でしょうか、不  
景気で建築の仕事はぐんと減りました。  
そこで75年頃に今の木材の特殊加工へ  
と転身しました(首藤代表)」

＜首藤代表自ら加工機器で使う刃物の研磨を行う＞



丸勝モルダ―特殊加工という屋号に変  
えたのもこの頃のことだ。「モルダ―」  
とは、木材の仕上げ工程の一つを指し、  
木材加工業界では機械名としても通る。

父のように  
頼られる職人に  
丸勝の看板を  
守り抜く

「コロナ禍で受注が不安定になり、ま  
た、職人が高齢化し、「一人また一人」と辞  
めていきました。そんな中、雅史が帰っ  
てくると言ってくれて、本当にうれし  
かったです。後継者問題が解決しまし  
た(笑)。そして、若い職人が石巻にい  
るといふことは地域にとってもとても  
良いことです(首藤代表)」

製材しただけでは木材の断面はさらついで  
いる。表面をよりなめらかにするのが  
モルダ―だ。  
現在はモルダ―ももちろん使用する  
が、メインで利用するのはNC工作機械  
(マシン)だ。NCは Numerical Control  
の略で、文字通り数値制御で機械は動く。  
加工に使う工具の使用順や作業工程を数  
値情報で指示すると、あとはNCマシン  
が自動で加工を行う。



「父の技術の高さはすさまじい」と語る雅史さんは、  
その技術を継承しようと日々模索している

「父はまず私の意見を尊重し、私の考  
えたり方でもやらせてくれます。その  
結果が失敗でも受け止めてくれるの  
で、それは大変ありがたいです」  
首藤代表は「失敗が将来の糧になりま  
す。なんでも経験です。思い切つてやれ  
ばいい」と穏やかに話す。雅史さんの目  
標はもちろん、父親である首藤代表のよ  
うになることだ。「父はどんな難しい仕  
事でも断りませんが、やり遂げます。私  
もそのめれるよう、しっかり技術を受け  
継いでいきたいと思っています。力強い宣  
言と笑顔がこぼれた。

丸勝モルダ―特殊加工

□所在地 石巻市中島字木ノ下 7-1  
□代表 首藤 勝秋 □設立 / 1927年4月 □従業員数 / 2人 □事業内容 / 木材特殊加工、社寺建築、R加工  
TEL 0225-62-2620 <http://moruder.jp/>



材木の状態を確認しつつ、NCマシンに載せる首藤代表 >



△円形の木材加工は丸勝モルダ―特殊加工にとってお手のもの。  
雅史さん(写真上、写真下右)が作業に入り、  
「心強く、頼もしい」と首藤代表(写真下左)は話す

